

# 大阪府スポーツ推進計画～大阪スポーツ王国の創造～ 大阪府のグラウンド（運動施設）を活用方法に関するご提案

相原ゼミ Cチーム

○田中 佑佳 山本 愛巳 青木 花恋 占部 修平 松田 優介 横山 優一郎

## 1. 緒言

現在、我が国における子供の体力低下や少子化、高齢社会の到来等により、スポーツを取り巻く環境は大きく変化を続けている。政府においては、平成23年8月に50年ぶりに「スポーツ振興法」が改正され、第27条において「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」であることや「障がい者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、推進されなければならない」とする「スポーツ基本法」が制定された。

このような、これまでには存在しなかった問題に対応し、今後の大阪における生涯スポーツ振興を一層進めるため、その方策として「大阪府スポーツ推進計画～大阪スポーツ王国の創造～」を策定した。下記表1において、目標数値に設定し、これらの達成により、大阪スポーツ王国の創造させる（大阪府・大阪府教育委員会,2012）。

表1 スポーツ推進計画の目標数値

項 目	現 状	目標数値
■大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合	平成22年 31.0%	50%
■成人の週1回以上のスポーツ実施率	平成19年 31.5%	50%
■大規模スポーツイベントの応募者数、観客数	本計画策定後に数値を決定	
■児童(小学校5年生を対象とした、体育授業以外での運動の実施率(週3日以上))	平成22年 54.6% (男子) 平成22年 27.9% (女子)	60% (男子) 35% (女子)
■府内市町村立小学校のうち、体育授業以外で継続的に体力向上の取組みを行う小学校の割合	平成23年度 64.3%	75%
■大阪府障がい者スポーツ大会における参加者数	平成22年度 966名 平成23年度 944名	恒常的に1,000名を上回る参加者数

出典：大阪府・大阪府教育委員会（2012）「大阪府スポーツ推進計画」

## 2. 大阪府の現状と課題

昨今、グラウンドに関する問題として、運動したくても最適なグラウンドがないことが問題となっている。表 2 からわかるように、大阪府は日本で第 3 位となる 2,077 施設の多目的運動広場を所有している。このことから、施設環境に問題がないことが言える、それならば、なぜ「大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合」が 31%に留まっているのだろうか。大阪府の抱える問題は、施設数の問題ではなく、いかに効率よく活用できるかであると考え

表 2 全国多目的運動広場数

多目的運動広場の施設数ランキング			
順位	都道府県	多目的運動広場の施設数	
1	 北海道	2,492 施設	
2	 東京都	2,350 施設	
3	 大阪府	2,077 施設	
4	 愛知県	2,032 施設	
5	 神奈川県	1,970 施設	

出典：都道府県格付研究（2012）「多目的運動広場の施設数ランキング」

### 3. 研究目的

本研究では、「大阪スポーツ王国」が実現するため、表 1 における「大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合」に注目し、大阪府に対する政策提言することを目的とする。そのため、「大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合」を 50%に増加させるため、「グラウンド（運動施設）」をいかに効率よく活用できるかを考察する。

### 4. 調査結果と考察

私たちは具体的な問題を探るためにアンケートによる定量調査とインタビューによる定性調査を実施した。

#### 4. 1. アンケートによる定量調査

グラウンドを使用者の問題を知るために大学生～高齢者を対象に 150 人にアンケートを実施。（有効回答 150 枚 男性 54% 女性 46% 20 代 57% 30 代 1% 40 代 4% 50 代 22% 60 代 16%）。アンケートから浮かび上がった使用者のグラウンド利用における不便な点は以下の 3 点である。グラウンドそのものに問題はなく、不便なのは予約等の使用までの過程（20 代～60 代）、グラウンド使用と同時に発生する用具費（20 代）、どこにグラウンドがある

かわからない（60代）である。

#### 4. 2. インタビューによる定性調査

グラウンドの貸主の問題を知るため以下のグラウンド管理者にインタビューを実施した。インタビューから浮かび上がった貸主のグラウンドにおける不便な点は2つある。1つ目は、グラウンドの予約方法が浸透していない。2つ目は、繁忙期と閑散期の差が激しいこと。

表3 インタビュー実施内容

日時	インタビュー先	役職	担当者
8月25日	万博記念競技場	-	吉田 勝志 様
8月28日	寝屋川公園	所長	牛牧 照雄 様

#### 4. 3. 考察

以上のアンケートによる定量調査とインタビューによる定性調査の結果から、グラウンドの利用者と貸主で双方に予約面と稼働状況に問題があることがわかった。グラウンドを利用者と貸主の双方の問題を解決するために、予約面と稼働状況に着目し考察する。

現在のグラウンドの予約方法は大きく分けて2通りである。直接グラウンドに利用状況を確認することと、会員制の予約サイトを用い数ヵ月先に予約をすることである。

利用者からすれば、各グラウンドに利用状況を確認することは、グラウンド利用が億劫になる要因となるだろう。会員制予約サイトを使用すれば各グラウンドに連絡をする手間は省けるが、まだまだ府民に浸透していないのが現状である。また、学生の部活動など以外では、数ヵ月先の運動を実施する予定は計画しにくいだろう。現在のグラウンドの稼働状況は多くの種目のシーズン期間の夏季は予約で埋まっており効率よく稼働できているが、多くの種目もオフシーズン期間の冬季はほとんど稼働できていないのが現状である。また夏季においても早朝～午前中は完全に稼働できていない場合もある。

#### 5. 大阪府に対する政策提言

予約と稼働状況の課題を解決するサービスを私たちは『グラウンド TOTTER』と名付ける。『グラウンド TOTTER』により「大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合」が増加するモデルを提言する。予約面では飲食業界の無料情報誌をモデルに新たな予約方法を提言する。飲食業界の無料情報誌はだれもが情報に触れられ、店を「立地」・「使用用途」・「値段」などから検索可能である。今後はグラウンドに関しても、誰もがグラウンドを「立地」・「使用用途」・「値段」などから検索できるようにする。稼働状況では航空券販売業界をモデルに、グラウンドの使用料を徐々に日時とともに割引、稼働率を少しでも向上させるものである。また当日まで予約がない場合は無料開放とする。

表4 『グラウンド TOTTER』の具体図

例)万博記念公園 現在時間11月28日 午前10:00							
	11月28日	11月29日	11月30日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日
午前	/	×	○ 2日前割引 ○○円引	○	×	○ 5日前割引 ○○円引	×
		○ 当日割引 無料開放	○ 前日割引 ○○円引	×	○	×	○ 5日前割引 ○○円引

クーポン割引率 当日>前日>2日前>5日前

表5 『グラントTOTTER』の活用モデル

ステージ	次のステージ	提言内容
定期的にグラントを利用	維持・これまで以上の利用	予約面
不定期的にグラントを利用	定期的に利用	経済面
グラント利用はしない	1回でも利用・不定期的に利用	経済面

大阪府民を3つのステージに分類した。「定期的にグラントを使用」ステージの府民は予約が簡略化することにより、これまで以上のグラント使用が期待できる。「不定期的にグラントを使用」ステージの府民は割引サービスにより経済的負担が減り学生層などを中心に利用が増えることが期待できる。「グラント利用はしない」ステージはグラントの開放により、少しでもグラントに関心を持つことが期待できる。また運動はしない府民にも利用者がおらず、グラントが閉鎖されているよりは開放されていることで大阪のスポーツに対するイメージが好転することが期待できる。以上の提言により「大阪府ではスポーツが盛んだと思う府民の割合」が増加し「大阪スポーツ王国」が実現に近づくことが期待できる。

## 6. 今後の課題

大阪（関西）は今後、大規模スポーツ国際大会が多く控えている土地である。2019年には世界三大スポーツ祭典にも数えられる「ラグビーワールドカップ」が日本で開催される。2020年には世界三大スポール祭典であり世界最大イベントである「オリンピック」が東京で開催される。今後競技以外にも合宿・観光等で各国の選手・応援団の関西訪問も考えられるだろう。2021年にはマスターズのオリンピックでもある「ワールドマスターズゲームズ」が関西で開催される。このことは大阪（関西）にとってさらなるスポーツ文化の発展・経済的発展の大きなチャンスであり、このチャンスを逃さぬためにも「大阪スポーツ王国の創造」は不可欠である。

〈参考文献〉

- ・大阪府・大阪府教育委員会（2012）「大阪府スポーツ推進計画」
- ・都道府県格付研究所（2012）「全国多目的運動広場」

<http://grading.jp.org/y2315005.html> (2015年10月22日閲覧)